S.　Ashina

１．オリエンテーション、導入――聖書と聖書学・考古学
２．旧約聖書１――宗教史的背景
３．旧約聖書２――創造
４．旧約聖書３――契約
５．旧約聖書４――王権
６．旧約聖書５――預言
７．旧約聖書６――知恵
８．新約聖書１――新約聖書学　6/10
９．新約聖書２――神の国　6/17
10．新約聖書３――イエスの譬え　6/24
11．新約聖書４――富　7/1
12．新約聖書５――国家　7/8
13．新約聖書６――グノーシス
14．受講者による研究発表１　7/15
15．受講者による研究発表２　7/22
16．フィードバック

＜前回＞預言

（１）王国分裂とその原因

１．ダビデ＝ソロモン王朝の分裂（BC.922 年）

２．内的要因：王制の問題点、諸部族の利害の調停困難（北の諸部族の不満）
　　外的要因：国際政治、軍事大国・巨大帝国（アッシリアとエジプト）の狭間

（２）預言者

３．祭司、預言者、知者　→　三者の関係：実体／批判、超合理／合理
　　契約・創造→　←人間・意味
　「神の啓示を受け、神の名によって語る人」「預言のカリスマ」
　　神の言葉　→　預言者（言葉を預かる）　→　王、民衆
　「政治的状況で発言を行う扇動政治家・政治評論家」

４．預言者（ナービー）。古典記以前の預言者：サムエル、ナタン、エリヤ、エリシャ
　　記述預言者：三大預言者：イザヤ、エレミヤ、エザキエル、　小１２預言者：

５．民族の危機＝契約思想に基づく古代イスラエル宗教の危機
・契約思想：神（主・ヤハウェ）とイスラエルの契約
　　子孫繁栄と土地取得の約束、信頼
　　→　約束成就のプロセスとしての歴史
・歴史の現実＝国家・民族滅亡の危機（バビロン捕囚、神殿崩壊）
・預言者はこの危機に直面して、古代イスラエル宗教の再生という課題に取り組んだ。
　　歴史意識の転換（契約思想の危機を乗り越える歴史の再解釈）
　　イスラエル民族の歴史的危機（バビロン捕囚）→預言者による歴史の再解釈（契約違反＝罪と、罰としての滅亡）→イスラエル民族宗教の変革

６．滅亡預言：契約を破ったイスラエル（罪）への罰としての危機

７．救済預言：救済の約束、契約の更新＝新しい契約　→キリスト教では／ユダヤ教では

（３）預言者の思想

８．社会正義：正義の神、不正・悪が滅亡の原因となる。

９．排他的民族主義の克服
　　古代イスラエルの宗教＝民族宗教、選民思想
　旧約聖書預言者における民族主義とその克服
　　1) 民族の救いとしての歴史・終末
　　　ダビデ王家の再建　→　救世主（メシア）はダビデの子孫から生まれる。
　　2) 苦難の僕：民族の相対化と新しい使命の自覚
　　　民族の滅亡と神の正義の普遍性

10．民族宗教から普遍宗教へ（民族宗教自体の内部からそれを乗り越える動きが現れる）
　預言者の平和思想、諸民族の神であるヤハウェ、神は他民族を通して意図を実現する。

７．旧約聖書６　：知恵

Ａ　知恵思想と科学

（１）成立の歴史的背景

１．旧約聖書の「知恵文学」：ヨブ記、詩篇の一部、箴言、コヘレトの言葉
　　外典の知恵の書、シラ書（集会の書）
２．創造や契約をめぐる諸思想を前提として、それを古代イスラエル民族が置かれた歴史的状況（王国形成・崩壊からバビロン捕囚、地中海・オリエント世界そしてヘレニズム世界の国際関係）において展開したものと位置付けられる。
３．知恵文学の成立の場：フォン・ラートらの旧約聖書研究→宮廷知識人、とくにエジプトの書記学校に相当する官吏養成　学校の知識人
　(1) 共同体の知恵（伝承）
　(2) 対外的な国際関係が要求する国際的な知恵
４．共同体の知恵：共同体の一員として習得すべき知恵（＝慣習的知恵）
　　因果応報原理の中心的な役割。
　　箴言１章８節「わが子よ、父の諭しに聞き従え。母の教えをおろそかにするな。」
　知恵の教師イエス（1980 年代からのイエス・ルネサンス）
　　転換的知恵（クロッサン）
　　↓
　イデオロギーとユートピア

（２）ヘブライ的知恵文学の思想的特徴

①創造の知恵、あるいは知恵による創造
　世界に内在する法則性への信頼→神への信頼＝「神への畏れ」
　知恵思想は創造論を前提とし、それを展開する内容をもっている。この点は、下に引用した箴言８章において、神が天地創造に先だって、最初に「知恵」を創造した。
②神の創造行為の探求と称賛としての科学　→　自然を通した神の讃美
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　→　自然神学（書物としての自然）
③「知恵のある生活」
　日常的な実践に関わる知恵に置かれている。箴言１４章などに見られる一連の対照（「神を畏れる―神に逆らう」→「知恵―無知」、「正しい―悪しき」、「謙虚―高慢」）からもわかるように、知恵は共同体において正しく・賢明に生きることを可能にする実践的知恵、世代から世代へと伝承された知恵。共同体の知恵は共同体の集団的な自己同一性の核心に属している。
④因果応報とその限界。個人の問題として、そして共同体・民族の問題として。
　この因果応報の様々な破れを鋭く描き、因果応報の限界をはっきり見据えている。
　「コヘレトの言葉」（「なんという空しさ、なんという空しさ、すべては空しい」）
　「ヨブ記」は、正しく生きる人間（義人）が不幸になる、という問題（義人の苦難）

（３）ヨブ記

５．人生の謎（悪・罪・不幸・不条理・無意味・不正義）に対して、宗教は何を語るのか。
　　謎に直面するときに、宗教の真価が問われる。
６．ヨブ記をどのように読むか。
　・散文体での枠組みの位置づけの問題
　・文学作品としてのヨブ記　→　思想にとって文学とは何か。
７．明確な論点とわかれる論点

・因果応報の破綻の後の世界
・ヨブは納得・了解したのか、救われたのか。

８．ユングのヨブ解釈
「神の変容」のプロセスにおけるヨブ記の意義。
・ヨブの道徳的な優位
・非合理的で暴虐な神から合理性を有する神（神の人間化）へ
悪の問題への対処

＜聖書引用＞
１．**箴言**　1:7 主を畏れることは知恵の初め。無知な者は知恵をも諭しをも侮る。8 わが子よ、父の諭しに聞き従え。母の教えをおろそかにするな。　8:22 主は、その道の初めにわたしを造られた。いにしえの御業になお、先立って。23 永遠の昔、わたしは祝別されていた。太初、大地に先立って。
11:1 偽りの天秤を主はいとい／十全なおもり石を喜ばれる。2 高慢には軽蔑が伴い／謙遜には知恵が伴う。3 正しい人は自分の無垢に導かれ／裏切り者は自分の暴力に滅ぼされる。4 怒りの日には、富は頼りにならない。慈善は死から救う。5 無垢な人の慈善は、彼の道をまっすぐにする。神に逆らう者は、逆らいの罪によって倒される。9 神を無視する者は口先で友人　を破滅に落とす。神に従う人は知識によって助け出される。
２．**詩編**　19:2 天は神の栄光を物語り／大空は御手の業を示す。3 昼は昼に語り伝え／夜は夜に知識を送る。4 話すことも、語ることもなく／声は聞こえなくても 5 その響きは全地に／その言葉は世界の果てに向かう。そこに、神は太陽の幕屋を設けられた。
３．**ヨブ記**
・1:1 ウツの地にヨブという人がいた。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きていた。2 七人の息子と三人の娘を持ち、3 羊七千匹、らくだ三千頭、牛五百くびき、雌ろば五百頭の財産があり、使用人も非常に多かった。彼は東の国一番の富豪であった。4 息子たちはそれぞれ順番に、自分の家で宴会の用意をし、三人の姉妹も招いて食事をすることにしていた。5 この宴会が一巡りするごとに、ヨブは息子たちを呼び寄せて聖別し、朝早くから彼らの数に相当するいけにえをささげた。「息子たちが罪を犯し、心の中で神を呪ったかもしれない」と思ったからである。ヨブはいつもこのようにした。6 ある日、主の前に神の使いたちが集まり、サタンも来た。7 主はサタンに言われた。「お前はどこから来た。」「地上を巡回しておりました。ほうぼうを歩きまわっていました」とサタンは答えた。8 主はサタンに言われた。「お前はわたしの僕ヨブに気づいたか。地上に彼ほどの者はいまい。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きている。」9 サタンは答えた。「ヨブが、利益もないのに神を敬うでしょうか。10 あなたは彼とその一族、全財産を守っておられるではありませんか。彼の手の業をすべて祝福なさいます。お陰で、彼の家畜はその地に溢れるほどです。11 ひとつこの辺で、御手を伸ばして彼の財産に触れてごらんなさい。面と向かってあなたを呪うにちがいありません。」12 主はサタンに言われた。「それでは、彼のものを一切、お前のいいようにしてみるがよい。ただし彼には、手を出すな。」サタンは主のもとから出て行った。
・2:8 ヨブは灰の中に座り、素焼きのかけらで体中をかきむしった。9 彼の妻は、／「どこまでも無垢でいるのですか。神を呪って、死ぬ方がましでしょう」と言ったが、10 ヨブは答えた。「お前まで愚かなことを言うのか。わたしたちは、神から幸福をいただいたのだから、不幸もいただこうではないか。」このようになっても、彼は唇をもって罪を犯すことをしなかった。
・3:1 やがてヨブは口を開き、自分の生まれた日を呪って、2 言った。3 わたしの生まれた日は消えうせよ。男の子をみごもったことを告げた夜も。4 その日は闇となれ。神が上

から顧みることなく／光もこれを輝かすな。
・31:35 どうか、わたしの言うことを聞いてください。見よ、わたしはここに署名する。全能者よ、答えてください。わたしと争う者が書いた告訴状を 36 わたしはしかと肩に担い／冠のようにして頭に結び付けよう。37 わたしの歩みの一歩一歩を彼に示し／君主のように彼と対決しよう。38 わたしの畑がわたしに対して叫び声をあげ／その畝が泣き 39 わたしが金を払わずに収穫を奪って食べ／持ち主を死に至らしめたことは、決してない。もしあるというなら 40 小麦の代わりに茨が生え／大麦の代わりに雑草が生えてもよい。ヨブは語り尽くした。
・32:1 ここで、この三人はヨブに答えるのをやめた。ヨブが自分は正しいと確信していたからである。2 さて、エリフは怒った。この人はブズ出身でラム族のバラクエルの子である。ヨブが神よりも自分の方が正しいと主張するので、彼は怒った。3 また、ヨブの三人の友人が、ヨブに罪のあることを示す適切な反論を見いだせなかったので、彼らに対しても怒った。4 彼らが皆、年長だったので、エリフはヨブに話しかけるのを控えていたが、5 この三人の口から何の反論も出ないのを見たので怒ったのである。
・38:1 主は嵐の中からヨブに答えて仰せになった。2 これは何者か。知識もないのに、言葉を重ねて／神の経綸を暗くするとは。3 男らしく、腰に帯をせよ。わたしはお前に尋ねる、わたしに答えてみよ。4 わたしが大地を据えたとき／お前はどこにいたのか。知っていたというなら／理解していることを言ってみよ。
・40:1 ヨブに答えて、主は仰せになった。2 全能者と言い争う者よ、引き下がるのか。神を責めたてる者よ、答えるがよい。3 ヨブは主に答えて言った。4 わたしは軽々しくものを申しました。どうしてあなたに反論などできましょう。わたしはこの口に手を置きます。5 ひと言語りましたが、もう主張いたしません。ふた言申しましたが、もう繰り返しません。6 主は嵐の中からヨブに答えて仰せになった。
・42:12 主はその後のヨブを以前にも増して祝福された。ヨブは、羊一万四千匹、らくだ六千頭、牛一千くびき、雌ろば一千頭を持つことになった。13 彼はまた七人の息子と三人の娘をもうけ、14 長女をエミマ、次女をケツィア、三女をケレン・プクと名付けた。15 ヨブの娘たちのように美しい娘は国中どこにもいなかった。彼女らもその兄弟と共に父の財産の分け前を受けた。16 ヨブはその後百四十年生き、子、孫、四代の先まで見ることができた。17 ヨブは長寿を保ち、老いて死んだ。

＜参考文献＞

１．フォン・ラート『イスラエルの知恵』日本基督教教団出版局。
２．並木浩一『旧約聖書における文化と人間』、『「ヨブ記」論集成』教文館。
『ヨブ記の全体像　並木浩一著作集１』日本キリスト教団出版局。
『批評としての旧約学　並木浩一著作集２』日本キリスト教団出版局。
『旧約聖書の水脈　並木浩一著作集３』日本キリスト教団出版局。
３．富樫逓一『旧約聖書の「知恵・教訓文学」』松籟社。
４．関根正雄『旧約聖書文学史　上下』岩波全書。
５．関根清三『旧約聖書と哲学――現代の問いのなかの一神教』岩波書店。
６．C.G.ユング『ヨブへの答え』林道義訳、みすず書房。
７．宮下聡子『ユングにおける悪と宗教的倫理』教文館。
８．アントニオ・ネグリ『ヨブ――奴隷の力』情況出版。
９．芦名定道・小原克博『キリスト教と現代――終末思想の歴史的展開』世界思想社。
10．クロッサン『イエス――あるユダヤ貧農の革命的生涯』新教出版社。
11．ボーグ『イエス・ルネサンス――現代アメリカのイエス研究』教文館。
12．並木浩一／荒井章三編『旧約聖書を学ぶ人のために』世界思想社。